

Economic Indicators

発表日: 2024年11月29日(金)

鉱工業生産(2024年10月)

～先行きは半導体関連に注意が必要～

第一生命経済研究所 経済調査部

副主任エコノミスト 大柴 千智 (TEL:03-5221-4525)

(単位:%)

		鉱工業生産								資本財(除く輸送機械)		消費財	
		生産		出荷		在庫		在庫率		出荷		出荷	
		前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比	前月比	前年比
23年	10月	1.2	0.9	0.3	0.8	0.0	0.8	▲0.2	4.1	1.0	▲6.8	1.4	7.2
	11月	▲0.6	▲1.6	▲0.8	▲1.7	0.0	0.9	1.5	6.3	▲2.0	▲8.5	▲1.3	3.0
	12月	1.2	▲1.1	1.6	0.2	▲0.9	▲0.5	▲2.3	2.3	6.0	▲2.9	▲0.1	1.0
24年	1月	▲6.7	▲1.5	▲7.5	▲1.7	▲1.7	▲1.8	2.6	0.8	▲4.9	2.7	▲5.2	1.3
	2月	▲0.6	▲3.9	▲0.7	▲4.7	0.6	▲1.7	▲5.6	1.9	▲4.1	▲5.1	▲1.9	▲2.5
	3月	4.4	▲6.2	4.7	▲6.8	1.0	▲1.0	7.6	6.8	7.9	▲4.2	4.1	▲6.0
	4月	▲0.9	▲1.8	▲0.4	▲1.4	▲0.2	▲2.4	▲0.7	0.5	▲0.1	3.1	▲0.9	▲1.3
	5月	3.6	1.1	3.9	1.3	0.9	▲2.1	▲1.2	▲1.5	0.9	▲0.6	8.3	2.7
	6月	▲4.2	▲7.9	▲4.7	▲8.1	▲0.7	▲2.7	1.7	4.8	▲10.6	▲13.5	▲5.4	▲5.0
	7月	3.1	2.9	2.7	2.0	0.4	▲2.5	▲2.4	▲3.9	7.0	1.9	1.5	2.9
	8月	▲3.3	▲4.9	▲4.1	▲6.5	▲0.8	▲2.2	5.3	5.9	▲4.1	▲7.3	▲3.0	▲3.7
	9月	1.6	▲2.6	2.4	▲4.2	0.1	▲1.3	▲3.8	3.0	▲2.1	▲6.5	0.2	▲3.3
	10月	3.0	1.6	2.8	0.6	▲0.1	▲1.4	▲1.4	▲0.9	11.0	4.5	6.6	3.4
	11月	▲2.2	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	12月	▲0.5	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(出所) 経済産業省「鉱工業指数」

(注) 24年11月、12月は、製造工業生産予測調査の数値

○生産用機械の大幅増で2か月連続の上昇も、来月以降は反動減に注意

経済産業省から公表された24年10月の鉱工業生産は前月比+3.0%となった(事前予想コンセンサス:同+3.8%)。上昇は2か月連続となった。

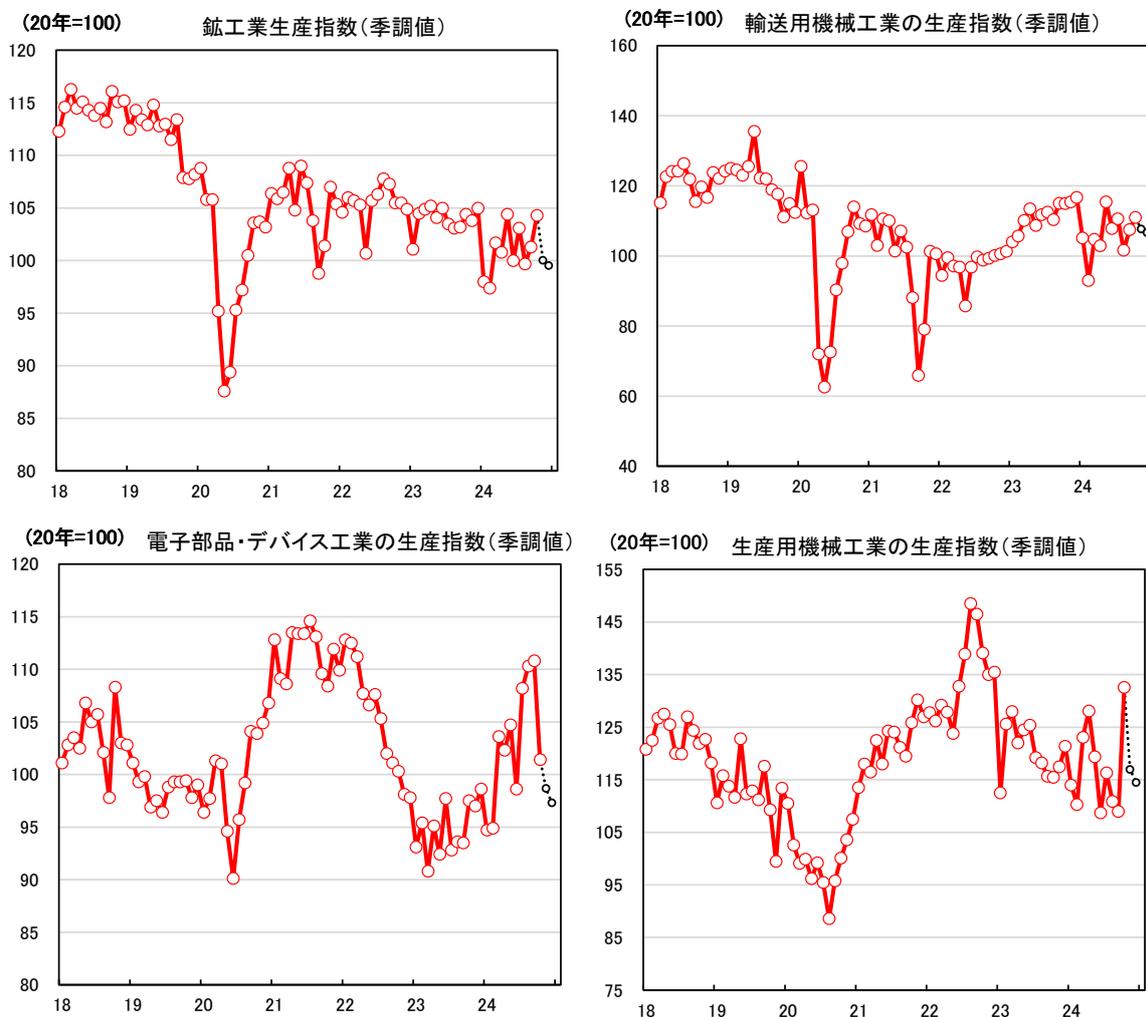
今月の上昇を牽引したのは半導体製造装置等の生産用機械(前月比+21.7%、寄与度+1.74%pt)である。次いで、輸送用機械(前月比+3.3%、寄与度+0.52%pt)、金属製品(前月比+8.1%、寄与度+0.34%pt)が上昇に寄与した。生産用機械は、10月時点での生産計画が非常に強かったことからサプライズはないものの、2ケタの大幅な伸びとなった。もっとも、今月は一時的な押し上げに留まる可能性が高く、来月以降は反動で低下に転じることが予想される。同時に公表された生産予測指数では、11月、12月の生産用機械はそれぞれ前月比▲11.8%、▲2.1%と低下が見込まれており、今月の上昇をほぼ打ち消す低下幅となっている。単月での振れが大きいものの、実勢としての生産用機械は、海外製造業部門の減速から下押しを受け、停滞感の強い状況が続いていると判断される。

他方で、7-9月期の生産を牽引した電子部品・デバイスは、10月に前月比▲8.5%(9月:同+0.5%)と4か月ぶりに低下に転じた。続く11月、12月の生産予測指数も同▲2.7%、▲1.4%と弱い数値が見込まれており、このところの増勢に陰りがみえる。7-9月期以降は在庫率指数も上昇に転じており、好調だったASEAN向け半導体輸出にも鈍化がみられることから、電子デバイスの生産も牽引力が弱まりつつあるように見える。もっとも、年内には熊本における半導体製造工場が稼働予定であり、この影響が先行きの生産計画に反映されていない可能性には留意しておきたい。現時点で当該工場の稼働日等の公表はなされておらず、統計データへの反映のタイミングも不透明感が強いが、該当

月もしくは年間補正のタイミングで生産指数が大きく上振れる可能性がある点には注意が必要だ。

○先行きも停滞感が強い。熊本県の半導体製造工場の影響には留意

同時に公表された製造工業予測指数は、10月が前月比▲2.2%、11月が同▲0.5%となった。また、予測指数には上振れバイアスがあるため、このバイアスを考慮した経済産業省の補正試算値でみると、10月は同▲4.1%の低下とさらに弱い。10月を牽引した生産用機械で反動減が予想されることに加えて、主力の輸送用機械も2か月連続の低下が見込まれる（輸送用機械の予測指数：11月▲3.0%、12月▲1.0%）。7-9月期の生産を下支えした電子部品・デバイスも、先行きは世界的な半導体需要の鈍化により下押し圧力は強い。上述の通り、年内に予定される熊本の半導体製造工場の稼働が現時点で反映されていない可能性も考慮すれば、非連続的な上昇（ジャンプアップ）には注意が必要となる。しかし、こうした要因を除けば、生産の牽引役が不在の中で、10-12月期も一進一退の停滞感の強い状況が続くと見込む。



(出所)経済産業省「鉱工業指数」(注)黒波線部分(24年11月、12月)は、製造工業生産予測調査の数値で先延ばししたもの。

本資料は情報提供を目的として作成されたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。作成時点で、第一生命経済研究所が信ずるに足ると判断した情報に基づき作成していますが、その正確性、完全性に対する責任は負いません。見直しは予告なく変更されることがあります。また、記載された内容は、第一生命保険ないしはその関連会社の投資方針と常に整合的であるとは限りません。